

えぽく

八重洲古書館
RETRO REVALUE RECYCLE

創刊 2号
2000年4月26日発行
中央区八重洲2-1
八重洲地下街
TEL033272-2888

変身中です!!

毎日のようにご利用いただいているお客様はお気づきのことかも知れませんが、『金井書店八重洲店』『八重洲古書館』は少しずつ変身しています。品揃え、プライス、陳列、買い取り、色々なことが……。

昨日までココにあったのは何処へいってしまったの！と、戸惑われる方もいらっしゃることでしょう。大変ご迷惑をお掛けしていますが、21世紀に相応しい(?)お楽しみ戴ける“お店”に変身中なのです。休業して一気に変身する方法もありますが、皆様のご意見を承りながら、変身していこうと思います。

デジタル化が急進し、書物の世界も大きく変化しています。印刷された書物から、モニターで読む時代へ、インターネットからデータを読み込む時代へ。今は、その変化に驚き、追いかけて、試していますが、人間、我が儘なモノで、アナログを捨てきれないのです。古書の世界には、不思議な魅力があります。我々の心を癒してくれる“本の世界”、“古書の世界”を皆様にも末永くご提供していく頑固な『八重洲古書館』でありたいと思います。次の三つをキーワードに<心なませ><環境に優しい>古書店を続けます。

RETRO= 懐古趣味

REVALUE = 再評価する

RECYCLE = 再利用、環流する

これからも、本をお売り戴くこと、お買い上げ戴くことの両面にわたり、相変わりがせぬご利用いただきたくお願い申し上げます。

八重洲古書館店長 渡辺明子
金井書店八重洲店店長 川上亜衣子
スタッフ一同

読み終えた本、昔の本をお売り下さい

書物はリサイクルに一番相応しいものです。読み終えて、ただ“積んどく”だけならば無駄です。直ぐにお売り下さい。愛着のある書物は、埃のかからない、日焼けしない処に大切に保管して下さい。

古本屋で買って、古本屋に売ることをまめに行うと、凄く、リーズナブルにたくさんの本が読めます。どうぞご活用下さい。

スタッフのメッセージ

はじめまして。

この4月から、新しく八重洲古書館のスタッフに加わるようになりました。

この号が出る頃には、新緑の季節かと思いますが、先日、お花見をしました。といっても、場所は習い事をしている教室のすぐ近く、早稲田は神田川の面影橋付近。川沿いの桜並木を、習い事の行き帰りに一人で散歩した程度ですが…。多勢でビールなどを傾けながらの賑やかなお花見も楽しいけれど、一人でのんびり、というのなかなか良いものでした。

本屋さん勤めるのは初めての経験で、分からない事だらけですが、一日も早く皆様のお役に立てるように勉強していくつもりです。そして、年齢はともかく気持ちだけは桜のようにいつまでも新鮮でいたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

八重洲古書館 石川貴代

ハジメマシテ。

4月から金井書店八重洲店で働いております大平というものです。

右も左も分からない状態です。どうぞよろしくお願い致します。

さてさて、このお店で働くようになるまでに何社か面接などをしたのですが、こんな課題を出してきた所があります。

課題「あなたは東京駅で田舎から出てきた老夫婦に国会議事堂までの行き方を聞かれました。どう答えますか？」どうもなにもこれはなぜなぞ？はたまたとんち？なんなのでしょうかこれは？私は一度も国会議事堂にいったことはありませんし、行き方も分かりません。「議員でもないのに年に2,3回は国会議事堂に行く」「国会議事堂に行かなければ夏は始まらない」こんな人はたぶんいないでしょう。いたらいたでビックリです。

ではなぜこんな課題が……。しかも入社試験に……。謎です。

これを読んでどなたかいい答え方が思いついた方は大平まで教えて下さい。

えっ、私の答えですか？課題を出す前にこのお店に決まったので考えませんでした。

金井書店八重洲店 大平泰子

ご意見ご感想ご提案をお待ち申し上げます。
下記宛にお寄せ下さい。

金井書店営業本部

〒161-0032 東京都新宿区中落合4-21-16

FAX 03-3953-7851

E-mail: office@kosho.co.jp

八重洲古書館

RETRO REVALUE RECYCLE

最新情報はインターネットホームページをご覧ください。

<http://www.kosho.co.jp/>

20世紀後半

漫画の主人公

漫画は、世界中に認められた、日本の文化です。“オタク”は、いまや英語の、それも褒め言葉として定着しており、日本の漫画家達は、その存在から作品まで、注目を集めています。

そんな日本の漫画界は、神様‘手塚治虫’の登場を境に、大きく変化します。そこで今回は、手塚治虫以前、手塚治虫以後、そして手塚治虫と、三部構成でいきたいと思います。



手塚治虫・以前

漫画もまた、文明開化によって、欧米から輸入された。とはいえ、その頃は、いわゆる風刺画で、漫画というよりはイラストと言った方がより近いかもしれない。日本初の漫画というと、ジョルジュ・ピゴードだろうか。彼は、新聞記者として、日本の風俗や生活などを、外国人の視点から楽しく時には嘲笑的に描いている。その後、大正から昭和と続く時代の中で、北沢楽天・岡本一平・柳瀬正夢・須山計一・下川凹天・田中比左良・小野佐世男・宮尾しげを・田河水泡などが登場する。年輩の方は、『団子串助漫遊記』や『男ヤモメの蔵さん』・『わらくろ』等を懐かしく思い出されるのではないだろうか。しかし、これらの時代は、軍部の権限が強大化してゆく過程でもあり、しだいに言論統制が厳しくなる中で、作家や漫画家の投獄が相次ぐなど、厳しい冬の時代でもあった。この



頃では、かなり現任の漫画の形態に近づいてきており、絵物語や4コマや連載ものもあったが、まだまだストーリーやコマ割りの点では、それほど劇的な変化はない。

手塚治虫・以降

戦後に、手塚治虫が『新宝島』でストーリー漫画という新しい形の漫画をメディアに登場させると、たちまち大人気を博す。また、横井福次郎、馬場のぼる、古沢日出夫、福井英一といった手塚と同年代の漫画家達も続々と登場し、特に、

福井英一の『イガグリくん』は、手塚と人気を二分する程で、この『イガグリくん』によって、新しい熱血感動漫画と呼ばれる分野が開拓され、後のスポ根モノなどに続いてゆく。その後も、横山光輝、白土三平、寺田ヒロオ、藤子不二雄、石ノ森章太郎、赤塚不二夫等が、続々と登場する。また、漫画雑誌も多様を極め、月刊だった少年誌は、次第に週刊へと移り変わる。また、貸し本という新しい形態も登場し、それは、まさに漫画文化が成熟へと向かってゆく過程でもあった。貸し本の業界では、つげ義春、水木しげる、椋図かずおなどが活躍している。その後も、人気作家は数えきれないくらい登場してくる。山上たつひこ、永井豪、松本零士、古谷三敏、本宮ひろし、諸星大二郎、星野之宣、大友克洋、かわぐちかいじ等、それこそ枚挙に暇はない。しかし、子供達に絶大な人気があったのと同時に、漫画は悪書として、迫害され続けた。偏見と誤解に凝り固まった心無い大人たちによって、子供達が堂々と漫画を読むことは難しかったのである。

一方、少女漫画は出遅れていた。いわゆる“24年組”と呼ばれる女性漫画家達が登場するまでは、男性の漫画家達が執筆しており、それはそれで人気があったのだが、この“24年組”の登場を機に、少女漫画の世界も、大きな変化を迎えることとなる。萩尾望都、竹宮恵子、佐藤史生、山岸涼子、大島弓子といったあたり



展示場所：金井書店八重洲店 & 八重洲古書館
開催期間：2000年5月1日(月)～5月30日(火)

20世紀後半

漫画の主人公

か、こいしにのめる。彼女達に共運するものは、構成力の巧みさや、デッサンの正確さもさることながら、SF的広がりをもったモノ、少年愛、歴史的人物やモンスターを扱った作品に意欲をみせていることである。これは、男性の読者をも多く獲得する結果となった。『風の詩』『ゾーの一族』『夢見る惑星』『日出処の天子』など傑作揃いである。また、池田理代子、細川千栄子、木原敏江といった、宝塚を連想させるまさに“少女漫画”的な作品も人気を博することとなる。その後も、吉田秋生、杉浦日向子、あしべゆうほ、青池保子、里中満智子、一条ゆかりと、こちらも百花繚乱である。

神様 ‘手塚治虫’

手塚治虫は、昭和3年11月3日に大阪に生まれた。その後、宝塚に引越す。写真と俳句が趣味で、家庭用映写機でディズニーアニメなどを見せてくれた父と、寝物語をしてくれたり少女歌劇や映画に連れていってくれた母、この二人による恵まれた環境で手塚は育った。昆虫採集が趣味で、音楽の初歩の手ほどきも受け、映画や宝塚の舞台を良くみていた手塚は、小学生の頃から漫画を書き始め、終戦を迎えた時には自分で製本した長篇漫画も含め、3,000枚という膨大な量の漫画が出来上がっていたという。

終戦後、弱冠17歳にして、新聞に漫画が掲載されはじめると、めきめきと頭角を表した。酒井七馬の原作で、



『新宝島』が単行本として発売されると、あっという間に、人気漫画家の地位まで登りつめた。この『新宝島』が、ストーリー漫画の始まりである。その後も、精力的に次々と単行本を発行していく。そして、『ジャングル大帝』が雑誌に連載され、その他にも多数の雑誌連載を抱えるようになってくると、超人的なスケジュールで作



品執筆を続けている。これは、死の直前まで変わらなかった。そんな、多忙を極めたなかでも、医科大学を卒業し、趣味の映画は年間365本以上みることもあったという。

彼は、数多くの新たな技法を漫画に取り入れ、ストーリー漫画から、絵物語・劇画・4コマと、様々な形態の漫画を書き、また、少年誌から青年誌・少女誌・新聞・単行本とジャンルを問わず、縦横無尽な活躍を見せる。その為か、なかなか編集者泣かせの作家だったらしく、新人は手塚番にして鍛える、などという出版社もあったという。

その後、自らのプロダクションを設立し、いよいよ念願のアニメにも、着手するようになる。『鉄腕アトム』は、初めての週1回の放送ということもあって、40%という高視聴率をもって、熱狂的に迎えられた。そして、アメリカでも放映されたのである。もともと、ディズニーアニメの大ファンでもあった手塚は、長篇アニメーションに

も息欲を兎せに。数々の作品を映画に、テレビに送りだした彼は、海外でもビッグネームを獲得していた。アニメ映画祭では、日本人で初めて賞を獲得している。そして、活躍の場は世界へと広がっていった。

しかし、雑誌の仕事も決して手を抜いたり休んだりしなかった。常に、読者の存在を念頭におき、どんな時でも最良のものを追求する姿勢は、言葉では言い尽くせない程であったという。

また、漫画家で全集を初めて刊行したのは手塚治虫である。その数300冊というのも凄いが、それでも未収録の作品が多くあるというのは、彼の作品がいかに読者の心をとらえ、また手塚自身が一時も創作の手を休めなかったということが、とても良く分かる話である。

生涯、第一線で活躍し続けた手塚治虫は、60歳でその生涯を終えた。



か創作されたことは、私達日本人にとって、なによりの宝ではないだろうか。

外国人は、なぜ日本人ほど漫画を読まないのか。その原因の一つは、彼等の国に手塚治虫がいなかったからだ。」といったのは、ある日の朝日新聞の社説である。この言葉こそ、手塚治虫が『漫画の神様』と言われる由縁をもっとも端的に表現しているのではないだろうか。



現在、漫画はあらゆるメディアと提携し、雑誌・単行本の出版物はもとより、アニメ・映画・ドラマ・演劇・宝塚と、その活躍の場は広がっています。また、最初に述べたように、日本は世界に誇る漫画王国です。手塚治虫によって、開拓された漫画は、この先も変わることなく、私達のアイデンティティとして、存在し続けることでしょう。

この度は、手塚治虫の、カラー原画を初め、貴重な作品を数多く展示しています。是非、足を運び、その美しい漫画の世界を、堪能して下さい。

今回の展示には、京都・石川古本店・石川栄基氏の秘蔵品を特別に拝借いたしました。ご協力ありがとうございます。

<文責・川上亜衣子>

展示場所：金井書店八重洲店 & 八重洲古書館
開催期間：2000年5月1日(月)～5月30日(火)

八重洲古書館

RETRO REVALUE RECYCLE

絶筆となった作品は数多く、その続きを永久に読むことができないのは、とても残念なことだが、43年の間に膨大な量の作品

